
ドラッグ？

侑子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ドラッグ？

【Nコード】

N9545P

【作者名】

侑子

【あらすじ】

ごく普通の女子高生である「私」、怪しい雑貨屋の店主である姉、優しい父、そして失踪した母……不思議な家庭環境に置かれながらも、無自覚に毎日进行した同じように過ごしている「私」は、変わりたいと願いつつもそのきっかけを得られずにいた。そんな中知ってしまった姉の秘密の商売。そして母の失踪の謎とは？ 様々な事件に巻き込まれながらも成長していく「私」の物語。

ブローグ 【私】

今日、バイトを辞めた。

私がバイトを辞めたのは二度目。

一度目はお母さんがいなくなっちゃった時で、二度目が今日。だから、自分の都合で辞めたのはこれが初めてね。

辞めた理由はいくつかあるけど、一番の理由は一緒に働いている人達への配慮。

だって、私がいると妙にイライラするみたいなんだもの、彼女達。年下の私がお店の重要なポジションについていたのが気に入らなかつたみたい。

だから私は悪くない。でも面倒ごとは嫌いだから辞めた。ただそれだけのこと。

人間関係って本当に面倒。だるい。

なるべく当たり障りのないように生きて行くのが賢い生き方なんだって信じてるから、私からアクションを起こすことなんてない。

実際、私だけじゃなく、みんなもそうしてる。

けど、そんな毎日って本当に退屈なの。

毎日毎日つまらなくて、生きてる意味なんてあるのかって本気で考えることもよくある。

でもね、そんな私から見ても、楽しく自分らしく自由に生きてる人って存在する。

それが私の家族。

特にお姉ちゃん是最強よ？

あの人に勝てる強烈なキャラの人間は、まだ見たこと無いもの。

私たちの性格は真逆。本当に姉妹なのかしら？

そんなこと言っているとお母さんが帰って来たときに怒られちゃう

わね。

私もお姉ちゃんみたいになりたいって正直思うこともあるけど、
まあ無理よ。

第一話 【家族】

お姉ちゃんの声で私は目が覚めた。

……酒臭い。

時刻は午前六時二十七分。もう空は十分明るい。

大体お姉ちゃんの活動終了時刻はいつもこのくらい。

なにが楽しいのか知らないけど、ニヤニヤしながらリビングのソファーに倒れてる。

青白くて綺麗な長い足が、片方ソファーから落ちちゃってる。

たまに起き上がって「もつと持って来てよぉーきゃはははは！」とか突然言い出すから怖い。かなり怖い。

実家であるこの家に帰ってくるのは週に一度あるかないくらいで、普段は近くのアパートで一人暮らしをしている。

お姉ちゃんはお酒が大好きだから、こんな風に酔っぱらって帰ってくることもしばしば。

眠い目をこすりながらも、私はいつもお姉ちゃんに毛布をかけてあげて、お水の入ったコップを近くのテーブルに置いておいてあげる。

私が学校から帰ってくるころにはいつもお姉ちゃんの仕事場に行っちゃっててもういない。

仕事場っていうのは、これまた近くにある雑貨屋「満月堂」。その女主人がここで倒れてる人。

だから開店時間は適当。お姉ちゃんの気分次第。

なのにけっこう儲かってるから不思議。

怪しげな雰囲気雑貨屋だから、女子高生とか町のおばさま達に大ウケみたい。

扱ってるものも、一体どこの国から取り寄せたんだ？　っていうものばかり。

妹の私でさえ、どんなルートでお姉ちゃんが買い付けしてるのか、全然知らない。

あとはお姉ちゃん自体を目的にお店に来る男の人とかも結構いるみたいけど……

それすら楽しんじゃってるのが、あの人らしいっていうか、なんていうか。

まあそんなこんなでお姉ちゃんは一応家を出ちゃってるから、今は私とお父さんの二人暮らし。

お母さんはいなくなっちゃった。

あ、お父さんが起きて来た。

「おはよう。祥子はまたそんなところで寝てるのかい？　仕方ないなあ」

そう言いながら、お父さんは朝食の準備にとりかかっている。

お父さんの朝食はほつぺたがとろけちゃうくらいおいしくて大好き。

一日がんばれるのも、この朝食のおかげと言っても過言ではない。私はダイニングテーブルの席に定まらない目でぼーっと座り、食器などを並べながら朝食を待つ。

「今日の朝食は美沙の大好きなふわふわのスクランブルエッグとコンスープ、あとは海藻サラダ！」

お父さんは朝からテンションが高い。見習いたいものだ。コンスープのいいにおいが、キッチンから流れて来る。朝食を食べながら、お父さんと会話するのも毎日の習慣。

「バイト、昨日で辞めたんだよね？」

「うん」

「そういえば理由聞いてなかったけど……どうして？」

「いろいろ」

「いろいろ……」

お父さんは何か考えながらコーンスープをすすっていたが、ふと思ってもみないことを言い出した。

「お父さんな、前から考えてたことがあるんだけど……祥子の店でアルバイトをしてみないか？」

私はポカーンとしてしまったが、よく考えて聞き返した。

「なにを言い出すのかと思ったら……お姉ちゃんのとこでバイト？」

あそこ小さなお店だし、お姉ちゃんだけで十分回ってるでしょ。

それに、なんで店主のお姉ちゃんからじゃなくてお父さんから頼まれなくちゃいけないの？」

「全然人手は足りていないらしい。それに……おまえじゃなければだめな理由もある。新しいことを始めれば、いろいろと変わるきっかけにもなるかもしれないし、なんたっておまえは、お母さんの娘なんだからな」

正直意味不明だ。

なぜあんな小さな店で人手が足りない？

そもそも私じゃなければだめな理由って？

お母さんがなにか関わってるの？

……もしかして、お母さんの情報が少しは手に入るかもしれない。

お父さんの目はものすごく真面目だ。

私の目をじっと見ている。

ただひとつ、間違いなく言えるのは、お父さんが私の気持ちを感
じ取ってくれてるってこと。

私は自分でも気づかないうちに変わるきっかけを探してた。今のままじゃだめだって思ってた。

なんにも取り柄のない自分。対人関係をめんどくさがる自分。本当は怖がりな自分……

そんな私にお父さんがせっかく提示してくれた機会だ。乗ってみるのも悪くないかな、と思った。

「……わかった。今日の学校帰りに満月堂に寄って、お姉ちゃんと話してくるよ」

私がそう答えると、お父さんはとってもうれしそうに笑って、

「そうかそうか！ よかった。がんばりなさい」

そう言って席を立った。

私も、なにがなんだかよくわからないまま食器を洗い、学校に行くことにした。

お姉ちゃんはまだ楽しそうに寝ている。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9545p/>

ドラッグ？

2011年1月5日14時58分発行